



第11期中間 2007年1月1日～2007年6月30日

# SIOS Report Vol.2

# Software for Innovative Open Solutions

## 私たちは、夢溢れるソフトウェアテクノロジーで 価値を創造し、社会の発展に貢献します。

### 株主の皆様へ



代表取締役社長  
喜多伸夫

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
また平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第11期中間（2007年1月1日～2007年6月30日）「SIOS Report Vol. 2」を株主の皆様にお届けし、当中間期の業績および今後の見通し等につきましてご報告申し上げます。

- 当中間期は、当社グループの主力製品であるLifeKeeperの国内外での販売、およびRed Hat Enterprise Linuxサポートサービスの受注が好調であったため、売上高は29億56百万円（前年同期比24.5%増）となりました。
- 当社グループの経営指標であるEBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却額）は、2億31百万円（前年同期比276.7%増）となりました。買収に伴うのれん償却等で1億62百万円の計上があったため、経常利益は30百万円（前年同期比34.6%減）となりました。中間純損失は、企業年金基金脱退損の特別損失、法人税、住民税及び事業税等の計上があり、65百万円となりました。
- 下期以降、競争はさらに激化するものと予想され、当期の売上高は58億円、経常利益は10百万円、当期純損失は1億10百万円となる見通しです。

下期は、主力製品やサービスの販売拡大を一層強化し、新たに発表した製品やサービスの浸透にも取り組んでまいります。また、収益性の高い事業の売上増と、中長期の継続的な成長を目指した研究開発に注力するとともに、コスト削減にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 目次

ご挨拶…1 財務ハイライト…2 【SIOSトピック1】新製品・サービスのご紹介…3 【SIOSトピック2】SteelEye Technologyのご紹介…5  
要約財務諸表…7 事業概況…9 会社概要／株式の状況…10

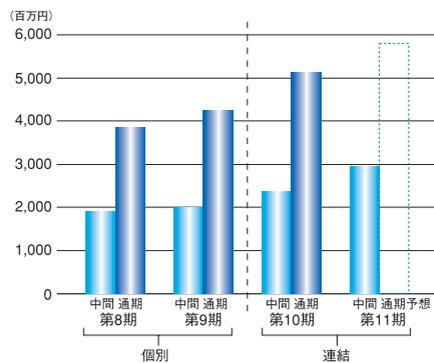
# 財務ハイライト

(単位：百万円)

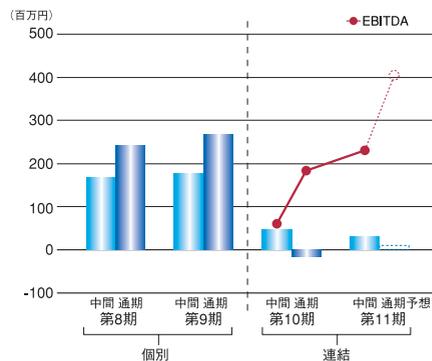
	第8期		第9期		第10期		第11期	
	中間	通期	中間	通期	中間	通期	中間	通期(予想)
売上高	1,917	3,848	1,994	4,247	2,375	5,125	2,956	5,800
経常利益	168	243	178	268	47	△16	30	10
中間/当期純利益	223	330	186	222	△31	△184	△65	△110
EBITDA	—	—	—	—	61	184	231	405
総資産	1,426	1,943	2,395	2,857	4,859	5,551	5,591	—
純資産	957	1,585	1,772	1,871	1,813	2,713	2,667	—
1株当たり中間/当期純利益(円)	6,239	9,019	4,937	2,924	△412	△2,249	△741	△1,239
1株当たり純資産(円)	26,724	41,902	46,839	24,216	23,370	30,577	30,057	—
従業員数(名)	99	103	139	134	199	188	187	—

注：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額  
第10期より連結決算を行っております。

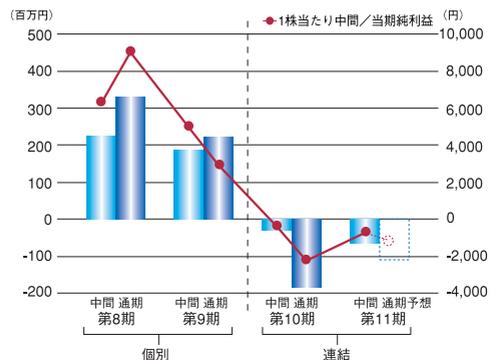
## 売上高



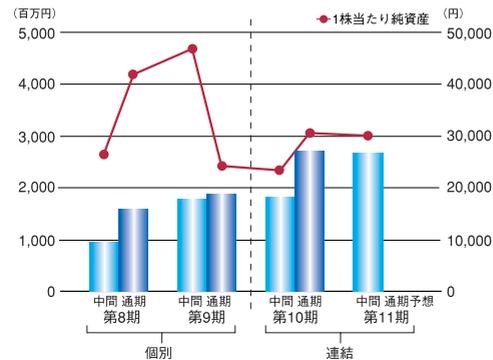
## 経常利益・EBITDA



## 中間/当期純利益・1株当たり中間/当期純利益



## 純資産・1株当たり純資産



サイオスでは、2007年上期に、新しい製品とサービスをそれぞれ発表いたしました。オープンソースソフトウェア(OSS)<sup>(\*)</sup>に長い間携わってきた経験によって培われた、知識やノウハウを基に生み出された、サイオスの新製品・サービスをご紹介します。

## ● プロジェクト管理ソフトウェア「ProjectKeeper」

企業における「プロジェクト管理」は、目標を達成するために、業務の実行計画をたて、その進捗を管理し、業務を効率的に進めることをいいます。例えば、営業活動において、セールスマンは目標予算を達成するために、「いつまでにこの作業を行い、どの時点でこの業務を終了させる」という、仕事の流れやステップを管理します。企業の情報システム部門での新たなシステムの開発・構築や、製造業における「モノ作り」などにおいても、完成までの工程を何らかの形で管理します。これがプロジェクト管理です。作業拠点が分散したり複数にまたがる場合においては、効率的に開発や作業を進めるために、「今日の段階にいるのか」「どこが遅れているのか」といった情報を、スタッフ全員が同時に把握し、スピードアップを図っていくことが重要です。ここで、プロジェクト管理ソフトウェアを利用し、業務を円滑に進めます。

従来のプロジェクト管理ソフトウェアは、高額であった

り、表計算ソフトが流用されるなどしており、タイムリーに情報共有ができない、コストがかさむ、操作が難しいなど、ユーザーが満足できる製品はほとんどありませんでした。

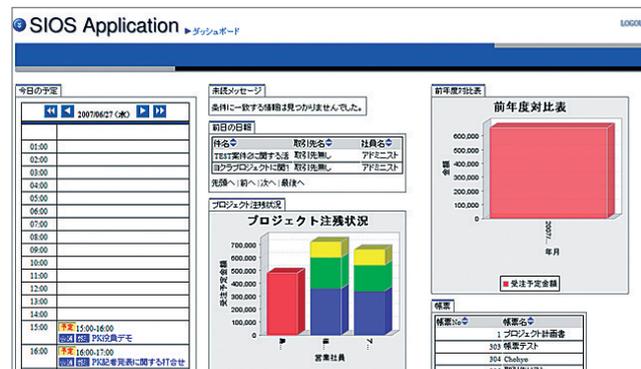
サイオスでは、「プロジェクトマネジメント業務を円滑に進めるために、多くのユーザーが満足できるソフトウェアはできないか?」という観点で、プロジェクト管理ソフトウェア「ProjectKeeper」を開発し、無償で使えるOSSとして、7月4日にベータ版(テスト版)を公開しました。

プロジェクト管理専用の機能がすでに備わっているだけでなく、プロジェクト管理ソフトウェアを使用した経験のない方でも、簡単に利用できるように設計されています。プロジェクトに関わる全てのスタッフが、簡単にタイムリーに情報共有ができ、プロジェクトの効率化を実現します。

工名	売込名	売上げ名	人日原価	人日売価	工率	原価小計	売価小計	粗利	粗利率
★ 資料充實			45,000	60,000	4.0	180,000	240,000	60,000	25.00%
★ 業務フロー分析					2.0				
★ データフロー分析					2.0				
★ 業務設計			45,000	60,000	8.0	360,000	480,000	120,000	33.33%
★ データベース設計					2.0				
★ ユースケース記述					2.0				
★ クラス設計					2.0				
★ UI設計					2.0				
★ 開発			45,000	60,000	20.0	900,000	1,200,000	300,000	33.33%
★ テスト			45,000	60,000	12.0	540,000	720,000	180,000	33.33%
★ 移行テスト					5.0				
★ 報告テスト					2.0				
★ 最終テスト					2.0				
					44	1,980,000	2,640,000	660,000	25.00%

### 画面例1 工程管理

プロジェクトの工程とそれぞれに必要な人員数、原価などを登録して、一覧で確認します。



### 画面例2 ダッシュボード

頻繁にチェックしたい情報や、良く使う機能など、自分専用の便利なホーム画面を作成することができます。

## ● オープンソースの「はてな」にお答えする「サイオスOSSよろず相談室」

5月24日に発表した「サイオスOSSよろず相談室」は、OSSの採用を検討中の企業や導入済みの企業に対し、サイオスが技術的な支援をするサービスです。

特定のソフトウェア開発会社が提供しているソフトウェアを購入した場合、その開発会社（あるいは提携会社）が、構築を請け負ったり、保守サポートを提供します。例えば、マイクロソフト社のWindowsを購入したら、マイクロソフト社がサポート対応をする、ということになります。しかしOSSを導入する場合には、採用するOSSの選定や構築など、自社が主体となって作業を進めなければなりません。ですから、会社としていざ取り組むとなっても、OSSに精通した技術者が不足していたり、専任体制を用意することができないなど、現実的な問題に直面することは珍しくありません。また、OSSを使用してシステムを構築したもののトラブルが発生し、どこが原因なのか突き止めることができない、という技術的な問題が起こることもあります。ここで活用していただけるのが、「サイオスOSSよろず相談室」です。

「サイオスOSSよろず相談室」は、まずお客様のご希望や問題点をお聞きしたうえで支援内容を決定させていただく、オーダーメイドのサービスです。

同様のサービスは他社でも提供していますが、サポートの対象となるOSSの種類やバージョンが限定されており（表参照）、お客様の利用環境に完全にマッチしていることは稀です。サイオスは、創業以来一貫して、LinuxをはじめとするOSSの導入と活用の支援に取り組んでおり、その知識や経験に基づいたノウハウで、業種や業態を問わず、さまざまなOSSの問題を解決します。



### 他社との比較

比較ポイント	海外A社 OSSスタック(*2)	国内B社 OSSスタック	国内C社 カーネル障害解析	サイオス OSSよろず相談室
Linux OSと同じサポート窓口	×	×	×	○
サポートされるOSSの種類	13	13	2	40以上
ソフトウェアバージョンの固定	あり	あり	あり	なし

\*1 オープンソースソフトウェア (OSS)

ソフトウェアの設計図となる「ソースコード」を公開し、開発者が自由に改良や機能追加などを行うことができるソフトウェア

\*2 OSSスタック

複数のOSSを組み合わせて提供しているサービス

### 1 SteelEye Technologyの歩みを教えてください。

SteelEye Technology (以下、SteelEye) は1999年、Linux向けアプリケーションソフトウェア(\*1)、データ保護ソリューション(\*2)の開発を手がけるベンチャー企業として設立されました。翌年には、HA (高可用性) クラスタソフトウェア(\*3)である「LifeKeeper for Linux」を発売し、さらにWindows環境に対応させた「LifeKeeper for Windows」を発売しました。LifeKeeperは、全世界の企業・政府、学校や自治体、データセンターなどに導入され、6,000ライセンス超の実績があります。

サイオスは、2001年にLifeKeeper for Linuxの販売契約を締結して以来のビジネスパートナーでしたが、昨年6月、サイオスがSteelEyeを買収してからは、同じ目標をもつ仲間となりました。

今年は、米国のCRN Magazine誌の「注目の新興テクノロジー企業10社」中の1社に選ばれました。これは、企業情報システムに欠かせない製品を開発している成長企業のランキングで、ここに会社が挙がることは非常に名誉なことで、とてもうれしく思っています。



今回のインタビューに回答したSenior Vice PresidentのBob Williamson  
(2007年8月米国で開催されたLinux Worldにて)

### 2 会社の特徴や長所は、何だと考えていますか？

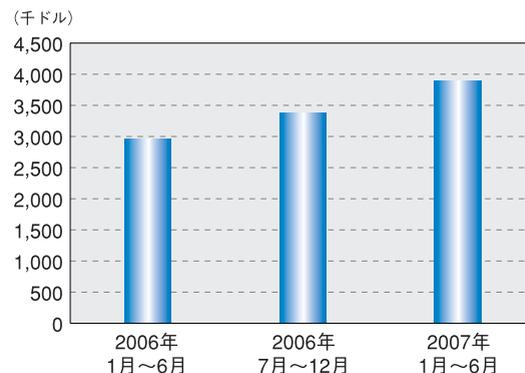
Linuxカーネル(\*4)の開発に関して、非常に高い技術を有していることでしょう。Linuxカーネルのメンテナが2名所属しているのですが、これは企業としては珍しいこと、そして素晴らしいことだと思います。

また、信頼度の高さが長所ですね。1999年以来、ソリューション販売を続けておりますが、顧客になっていただいた企業のリピート率がとても高いのです。これは、信頼、そしてご満足いただけているからこそその結果だと思います。

### 3 日本以外での事業の状況はいかがでしょう？

順調です。SteelEyeの売上は、日本、ヨーロッパ、北米、それぞれ3分の1ずつ占めているのですが、2004年から順調に伸び、増収を続けています(表参照)。製品の内訳として、Linux向け製品が75%、Windows向け製品が20%で、残り5%はサービス事業です。

売上高の推移(半年毎)



## 4 昨年の買収以前と今では、何か変わったことなどはありますか？

サイオスの経営トップ層だけでなく、技術、マーケティング、経理、広報のスタッフとのコミュニケーションをよくとるようになりました。通常の業務では、実体的に以前とほとんど変わりはありません。アメリカでは、特に技術者の場合、例えば自宅等のオフィス以外の場所で作業をすることが大半なのですが、そのようなスタイルは以前のまま、集中して開発に取り組むことができます。そして、サイオスのスタッフとの技術交流も始まります。10月から、サイオスのエンジニア1名が、SteelEyeで仕事をするようになっていました。双方の会社にとって、とてもメリットがあると思っています。

## 5 オフィスの環境はどうですか？

本社は、カリフォルニア州のパロアルトにあります。研究開発拠点は、サウスカロライナ州コロンビア市近郊に置いていましたが、2007年8月、コロンビア市内で移転しました。以前よりも広く、とても静かなところ。オフィススペースの改善によって、トレーニングもできますし、エンジニアリング、製品サポートチームの業務もますます円滑になると思うので、スタッフは非常に満足しています。

## 6 最後に、読者の皆様にメッセージをお願いします。

SteelEyeは、サイオスグループの一員となったことを非常にうれしく思います。これからの力強い飛躍のための基礎づくりが完了したといえます。これからの成長に、ぜひ期待してください。



オフィスでディスカッションをしているスタッフ

### \*1 アプリケーションソフトウェア

文書の作成、数値計算など、ある特定の目的のために設計されたソフトウェア。代表的なものとして、ワープロ、表計算、画像編集、メール用ソフトウェアなどがある。

### \*2 ソリューション

業務上の問題点の解決や、要求の実現を行うための情報システム。専門の業者が、顧客の要望に応じてシステムの設計を行い、必要となるあらゆる要素（ハードウェア、ソフトウェア、通信回線、サポート人員など）を組み合わせ提供することをいう。ソリューションの構築を請け負う業者のことを「ソリューションプロバイダー」「システムインテグレーター」「システムプロバイダー」などと呼ぶ。

### \*3 HA（高可用性）クラスターソフトウェア

システムの停止時間を最小限に抑え、システムダウンのリスクを回避する対策をHAクラスターといい、これを実現するソフトウェアのこと。

### \*4 カーネル

OSの中核部分であり、OSとしての基本機能を実装したソフトウェア。

# 要約財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

	第10期中間 2006年6月30日	第11期中間 2007年6月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,642,806	3,458,970
現金及び預金	561,111	986,970
受取手形及び売掛金	867,962	801,009
有価証券	123,212	329,598
たな卸資産	443,918	175,877
前渡金	622,066	1,098,430
その他	43,304	76,453
貸倒引当金	△18,768	△9,369
固定資産	2,216,431	2,132,564
有形固定資産	49,985	104,639
*1 無形固定資産	1,943,509	1,737,198
投資その他の資産	222,936	290,727
資産合計	4,859,238	5,591,535
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,991,217	2,136,544
買掛金	235,938	209,297
*2 短期借入金	700,000	—
*2 1年以内返済予定長期借入金	—	250,000
*3 前受金	691,417	1,387,787
その他	363,862	289,458
固定負債	1,054,909	787,586
*2 長期借入金	1,000,000	750,000
退職給付引当金	32,642	37,586
その他	22,266	—
負債合計	3,046,126	2,924,130
<b>純資産の部</b>		
株主資本	1,813,111	2,545,874
資本金	983,555	1,481,520
資本剰余金	363,340	861,305
利益剰余金	466,216	203,049
評価・換算差額等	—	114,510
新株予約権	—	7,019
純資産合計	1,813,111	2,667,404
負債純資産合計	4,859,238	5,591,535

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	第10期中間 自 2006年1月1日 至 2006年6月30日	第11期中間 自 2007年1月1日 至 2007年6月30日
売上高	2,375,270	2,956,981
売上原価	1,673,656	1,693,023
売上総利益	701,614	1,263,958
*4 販売費及び一般管理費	653,355	1,228,583
営業利益	48,258	35,375
営業外収益	11,981	9,703
営業外費用	13,223	14,344
経常利益	47,017	30,734
特別利益	12,757	—
*5 特別損失	—	47,879
税金等調整前中間純利益	59,774	△17,145
法人税、住民税及び事業税	1,145	40,109
法人税等調整額	90,548	8,573
中間純利益	△31,918	△65,828

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	第10期中間 2006年6月30日	第11期中間 2007年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	148,654	24,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,874,239	△41,957
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,675,260	△39,222
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	12,616
現金及び現金同等物の増減額	△50,324	△44,017
現金及び現金同等物の期首残高	734,648	1,360,586
現金及び現金同等物の中間期末残高	684,323	1,316,569

## 連結株主資本等変動計算書

第11期中間(2007年1月1日～2007年6月30日)

(単位：千円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2006年12月31日残高	1,481,520	861,305	313,250	2,656,075	57,486	57,486	—	2,713,561
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△44,372	△44,372				△44,372
中間純利益			△65,828	△65,828				△65,828
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					57,023	57,023	7,019	64,043
中間連結会計期間中の変動額合計			△110,200	△110,200	57,023	57,023	7,019	△46,157
2007年6月30日残高	1,481,520	861,305	203,049	2,545,874	114,510	114,510	7,019	2,667,404

## 個別貸借対照表

(単位：千円)

	第10期中間 2006年6月30日	第11期中間 2007年6月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,423,068	3,014,822
固定資産	2,265,394	2,384,942
有形固定資産	44,900	94,109
無形固定資産	64,977	69,407
*1 投資その他の資産	2,155,516	2,221,425
資産合計	4,688,463	5,399,765
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,820,443	1,848,210
固定負債	1,054,909	787,586
負債合計	2,875,352	2,635,797
<b>純資産の部</b>		
株主資本	1,813,111	2,756,948
資本金	983,555	1,481,520
資本剰余金	363,340	861,305
利益剰余金	466,216	414,123
新株予約権	—	7,019
純資産合計	1,813,111	2,763,967
負債純資産合計	4,688,463	5,399,765

## 個別損益計算書

(単位：千円)

	第10期中間 自 2006年1月1日 至 2006年6月30日	第11期中間 自 2007年1月1日 至 2007年6月30日
売上高	2,375,270	2,647,392
売上原価	1,673,656	1,850,873
売上総利益	701,614	796,518
販売費及び一般管理費	653,355	656,271
営業利益	48,258	140,247
営業外収益	11,981	3,948
営業外費用	13,223	14,198
経常利益	47,017	129,997
特別利益	12,757	—
*5 特別損失	—	47,879
税引前中間純利益	59,774	82,117
法人税、住民税及び事業税	1,145	28,270
法人税等調整額	90,548	8,573
中間純利益	△ 31,918	45,273

### 【連結・個別貸借対照表】

#### \*1 無形固定資産(連結)／投資その他の資産(個別)

2006年6月にSteelEye Technologyを買収した際に、連結決算では1,878百万円の『のれん』を計上し、個別決算では1,950百万円の『関係会社株式』を計上しています。

#### \*2 短期借入金／1年以内返済予定長期借入金／長期借入金

SteelEye Technology買収のために借り入れた資金1,700百万円のうち、第11期中間末までに700百万円を返済しました。

#### \*3 前受金

Red Hat Enterprise Linuxの2年目以降のサポートについては、一括で受領した年間サポート料のうち、サポート契約終了までのサポート未提供分は前受金として計上されています。同サポート契約件数が順調に伸びているため、第11期中間末の前受金は第10期中間末と比べ大幅に増加しています。

### 【連結・個別損益計算書】

#### \*4 販売費及び一般管理費(連結)

2006年6月からSteelEye Technologyを連結しているため、同社の販売費及び一般管理費は第11期中間では計上されていますが、第10期中間は計上されていません。したがって、第11期中間では、大幅に増加しています。

#### \*5 特別損失

第11期中間には、大塚商会グループの退職給付制度の変更に伴う同基金脱退による企業年金基金脱退損44百万円が計上されています。

## ■ 当中間期の業績

当中間期は、SteelEye Technologyの業績を連結し、売上高は前年同期比24.5%増の29億56百万円となりました。売上総利益は、前年同期比80.2%増の12億63百万円となり、売上総利益率は前年同期の29.5%から42.7%に大幅に上昇しました。当社グループの経営指標であるEBITDA (\*1) は、前年同期比276.7%増の2億31百万円と、大幅に増加しました。経常利益は、前年同期比34.6%減の30百万円となり、企業年金基金脱退損で44百万円の特別損失の計上があったこと等のため、中間純損失は65百万円となりました。

## ■ Linux関連事業

LifeKeeperの好調な販売と、Red Hat Enterprise Linuxの販売および2年目以降のサポート売上の増加により、Linux関連事業全体では、売上高は前年同期比35.5%増の24億81百万円となりました。主力製品のひとつであるLifeKeeperでは、再販企業向けに評価用ソフトウェアや技術者トレーニングの無償提供、技術セミナーの定期開催、営業支援等を行う「LifeKeeperビジネスパートナープログラム」を昨年10月にスタートさせ、6月末時点で51社の参画を得ています。海外では、アプリケーションソフトウェア開発企業向けのOEM販売 (\*2) の強化と再販企業拡大に注力しました。

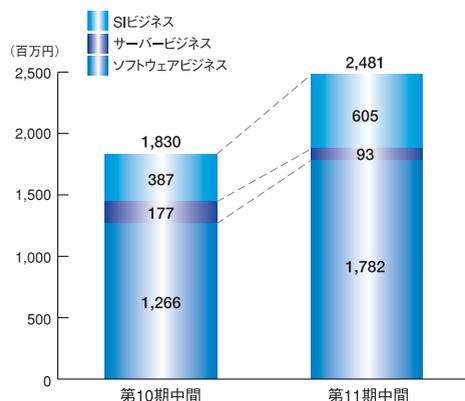
## ■ Java関連事業

企業の情報化投資意欲が回復し、業界環境が好転してきたなか、Java関連事業の売上高は前年同期比12.7%減の4億75百万円となりました。ソフトウェアビジネスでは、輸入商品であるAgitatorとprotexIPおよび、自社製品のSales Force Automation+が大きく伸び、前年同期比25.3%増の1億34百万円となりました。Web2.0の技術を取り入れた新製品「ProjectKeeper」をベータ版として7月に公開。下期には正式版をリリースし、サポートサービス事業をスタートする予定です。また、OSSに関するさまざまな問題解決を支援する「サイオスOSSよろず相談室」を6月に新設。大手企業を中心に、すでに10件以上の契約が締結されています。

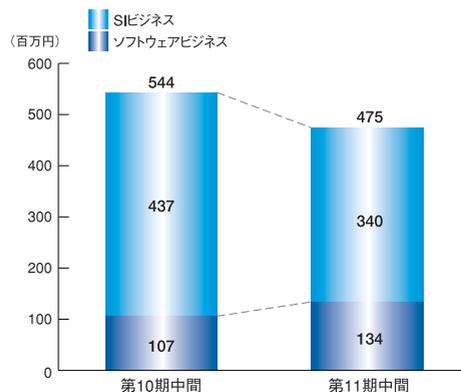
\*1 EBITDA…営業利益+減価償却費+のれん償却額

\*2 OEM販売…企業間の契約形態の一つで、自社の製品を他社の製品に組み込むことにより、自社製品を他社に委託するようにして販売すること

Linux関連事業売上高の内訳



Java関連事業売上高の内訳



## 会社概要

会社名	サイオステクノロジー株式会社 (英語表記：SIOS Technology, Inc.)
本社住所	東京都港区虎ノ門四丁目1番28号 虎ノ門タワーズ
設立	1997年5月23日
資本金	14億81百万円 (2007年6月30日現在)
従業員数	連結187名 個別156名 (2007年6月30日現在)

役員	代表取締役社長	喜多 伸夫
	取締役	郷坪 智史
	取締役	田中 修
	取締役	福田 敬
	取締役	藤枝 純教
	監査役	飯田 政治
	監査役	古畑 克巳
	監査役	河邊 春喜

(2007年6月30日現在)

子会社	SteelEye Technology, Inc. (カリフォルニア, USA)
-----	---



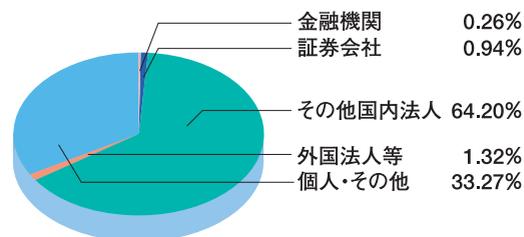
本社ビル

## 株式の状況 (2007年6月30日現在)

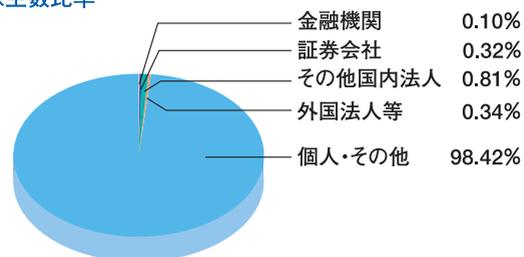
発行可能株式総数	150,000株
発行済株式総数	88,744株
株主数	4,062名

### 所有者別株式分布状況

#### 株式数比率



#### 株主数比率



## 株主メモ

事業年度末	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	日本経済新聞(東京)に掲載します。
上場取引所	東証マザーズ
コード番号	3744